

めでいかすとる
Médicastre



「紅椿 雪に咲く —— 陋屋の中庭にて。」

鶴岡地区医師会新年会

日時：平成29年1月13日(金) 18:30～
場所：新茶屋

数年に一度の最強寒波が到来し、この冬初めて除雪車が出動した日、35名のご来賓をお迎えし、総勢96名で医師会新年会が開催されました。

土田会長の新年のあいさつは、「恒例の新年会は期待をはるかに超える雪になりました」という言葉で始まりました。

また、12年前の酉年の時と現在の医師会の事業についても触れられ、29年度は慎重かつ大胆な舵取りが必要になってくると述べておりました。

続いて、来賓の加藤鮎子衆議院議員、榎本政規鶴岡市市長、酒田地区医師会十全堂の栗谷義樹会長の御三方より祝辞を賜りました。

加藤議員は、どの業界も人手が不足しているが地域医療を担う若い人達の育成をお願いしたい。そのために自分もできることは尽力したいとの力強い御言葉をいただきました。

来賓のご紹介の後、佐藤文一鶴岡市議会議長による乾杯の御発声で宴会が始まりました。

降り続く雪は、ライトアップされた庭園をさらに美しく映しだし、それを眺めながら暫し、美味しいお料理と会話を楽しみました。

最後は鈴木伸男先生の本締めでお開きとなり、満員のマイクロバスが雪の降る街、つるおかの夜に消えて行きました。

平成29年酉年。皆さまにとって、幸多き1年になりますように🍀

教務課 宮崎 純子



日時：平成28年12月14日(水) 19：00～
場所：東京第一ホテル鶴岡

鶴岡市立荘内病院主催
地域医療連携推進協議会・鶴岡地区医師会・登録医・荘内病院「合同懇談会」

昨年12月に行われた「合同懇談会」（参加者65名）において荘内病院の取り組みについてご紹介させていただきました。以下、講演内容をご参照ください。

テーマ

「高度・良質な医療を求めて ～荘内病院 診療科の取り組み～」

発表者 荘内病院 小児外科主任医長 大滝 雅博 先生
放射線科主任医長 齊藤 聖宏 先生

「変わった!? 変わらない? 荘内病院 2016 ～この一年を振り返って～」

発表者 荘内病院 認知症看護認定看護師 富樫千代美 氏
摂食嚥下障害看護認定看護師 石井 佳 氏
排泄ケアチームリーダー 加藤 愛 氏
地域医療連携室長 鈴木 聡 先生



小児外科主任医長 大滝 雅博 先生

当科は、昭和59年に診療科が開設され32年が経過した。筆者が当院に赴任してからの10年間を振り返り、さらにこれから今後10年の展望について述べたい。

当院に赴任してから10年間、筆者は小児外科の一人医長としてのみならず、一般外科診療にも積極的に参加してきた。この診療スタンスは極めて特異で、全国の中でも小児外科専門医でおそらくトップレベルの一般外科手術術者・助手経験数を誇るものと自負している。新潟大学外科学教室の伝統“unter einem Dach”をこの鶴岡で育てていただいた当院外科の諸先輩方のご尽力に感謝する次第である。

一般外科と小児外科双方向の手術を経験することで、特に鏡視下手術はかなり早い段階で躊躇なくスムーズに導入することができた。現在は鼠径ヘルニア根治術、虫垂切除術、噴門形成術、脾臓摘出術、ヒルシュスプルング病根治術、鎖肛根治術などへ鏡視下手術の適応範囲を拡大するのみならず、積極的に単孔式手術やReduced port Surgeryを工夫・導入し現在に至っており、近隣県も含めほかの小児外科施設

と比べても極めてレベルの高い手術が提供できているものと考えている。

しかし、この10年を振り返ると、当科での対応困難な症例（悪性腫瘍・複雑奇形を有するような新生児）の存在、小児外科指導医資格、なにより小児外科医としての絶対的な経験値など、様々な反省点も浮かび上がってきた。いつまでも二足の草鞋で診療を行うことに悩んだ末、平成28年6月より我儘ではあるが小児外科専従医として新たなスタートを迎えることとなった。今後10年間の目標としては、新しい小児外科研修医が喜んで出張に来てくれる認定施設資格獲得や手術手技の更なる向上を目指し、小児外科医としての研鑽を積んでいきたいと考えている。



放射線科主任医長 齊藤 聖宏 先生

CT、MRIの画像診断についてですが、自宅にコンピュータを設置し、タブレットPCを利用することにより、夜間・休日でも、院外にて緊急検査の読影が可能となっています。また、CT、MRIの機器共同利用を行っており、Faxで簡単に予約出来ますのでどうぞ御活用ください。
インターベンショナルラジオロジー (IVR)

とは、血管造影やCT等の画像を活用した血管内・外の非侵襲的な治療のことです。当科では、肝癌に対する肝動脈化学塞栓療法(TACE)を中心に、外傷等による出血に対する緊急塞栓術、内臓動脈瘤の塞栓術、腹腔内膿瘍ドレナージ等を行っています。

TACEでは、栄養動脈の遮断、抗癌剤の局所長期滞留効果が得られます。マイクロカテーテルの導入で、区域・亜区域レベルの超選択的TACEが本邦では標準治療となっており、多血性及び結節性の4～5cm前後以下の肝癌では亜区域塞栓術後の局所再発率は30～40%と報告されています。合併症、苦痛ともに少ない治療法であり、手術や局所焼灼療法の適応とならない多血性肝癌で、門脈主幹から一次分枝に閉塞を認めず肝予備能が比較的保たれている症例が一般的な適応となります。

当院では、近年、単発でかつバルーン閉塞下血管造影で腫瘍濃染が認められる症例に対して、バルーン閉塞下TACE(標的B-TACE)を行っています。新しい技術でエビデンスは十分ではありませんが、肝癌診療マニュアルには、標的B-TACEは癌結節への薬剤・塞栓物質集積を向上させると記載されています。当院における現時点での症例数は少ないものの、腫瘍への概ね良好な集積が得られています。

当院に導入された最新機器により得られる画像を軸としながら、診療放射線技師、各診療科医師、医師会の先生方と連携し、鶴岡、庄内の医療に貢献したいと思っております。



地域医療連携室長 鈴木 聡 先生

今年新しく導入、開設されたチーム医療と専門外来を紹介しながら庄内病院のこの1年を振り返ってみた。

4月に発足した認知症ケアチームの活動について、認知症看護認定看護師の富樫千代美さんが紹介。認知症を有している患者さんの原病の治療がスムーズにできるようにお手伝いすること、患者さん・ご家族の相談に乗り解決をはかることなどを目的に、週1回入院棟での多職種ラウンド、月1回の院内デイケアなどを実践し



ている。半年間で500名以上の患者様に関わっている。

6月に摂食嚥下障害のケアの重点的介入が開始されたが、摂食嚥下看護認定看護師の石井佳さんが活動の一端を紹介。嚥下内視鏡を使った嚥下の評価とそれに応じた食形態の調整、誤嚥性肺炎パスの導入、看護活動として口腔ケア、唾液腺マッサージ、さらに在宅・地域での生活を重視するための退院指導を充実させるなど活動は多岐にわたっている。

7月に発足した排尿ケアチームの活動については、チームリーダー看護師の加藤愛さんが紹介。チーム活動の目的は、下部尿路機能障害を有する患者様に対して早期に自立的排尿を可能とすること。現在まで18名の患者(尿閉7名、失禁6名など)に係っており、骨盤底筋体操や排尿誘導、薬剤指導などを行っている。

9月に開設されたIBD/ピロリ菌専門外来は池田内科医院の渡邊秀平先生が担当。IBD(潰瘍性大腸炎、クローン病)罹患者は近年増加しており、特に若年者のQOLを著しく低下させる疾患でもある。発がんのリスクも高いことから、治療に難渋されている患者、ステロイドが切れない患者さんは、是非専門外来(第2、4水曜日午後)へ紹介していただきたい。また、成人のピロリ菌感染の診断、治療も行っている。

ペインクリニック外来も合わせて紹介する。当外来は平成21年に開設されたが、現在担当は2代目の麻酔科渡部愛子先生。毎週水曜日の午前、午後外来診療を行っている。心理的因子の絡んだ痛みも含むすべての痛み、あらゆる箇所を痛みを対象として、神経ブロック注射や光線療法(スーパーライザー、キセノン治療器)、薬物療法を行っている。

庄内病院は専門分化した複雑な医療に対応し今後ともチーム医療の推進と専門外来の維持・拡充を図っていきます。地域住民の信頼を勝ち得るよう、今後とも医師会の皆様の叱咤激励、ご理解・ご協力をお願いいたします。

工一(A)会員になりました

—新規開業医紹介—

なごみクリニック 伊藤 俊



私は昨年3月に鶴岡市桜新町にて、心療内科・精神科を標榜した「なごみクリニック」を開業いたしました。早いもので間もなく1年が経とうとしています。

クリニック名の「なごみ」は、当院に来院される方々に少しでも「なごんで」、リラックスしていただけるようなクリニックにしたいという思いから名づけました。また、当院のマスコットキャラクターであるフクロウには「不苦勞」＝「苦勞しない」といった意味もあるため、患者さんの「辛い気持ちや不安な気持ち」＝「苦勞」を取り除けるようにという思いから決定しました。クリニックの床は「なごむ」イメージや「フクロウ」のイメージに合わせて、木材を使用し、ご高齢の患者さんが履物を変える際の負担をなくすために、下足のまま入室できるようにしました。

私は神奈川県川崎市出身ですが、「開業は庄内で」と決めていました。もともと父が真室川町の出身で毎年夏には子供の時から訪れていたということもあり、山形には昔から縁があったということもありますが、開業前に勤めていた三川病院でたくさんの患者さんやそのご家族に関わらせていただき、庄内の方々の実直な人柄に触れ、ぜひ、庄内の患者さんのお力になりたいと考えるようになったのがそのきっかけでした。土曜・日曜を診療日としたのも、病気を抱えながら働いている患者さんが受診しやすい環境を提供するためです。

開業準備には3年以上の月日を要しました。それまで、勤務医としての経験しかなかった私にとって、開業地の選定、金融機関との融資

交渉、設計士や建設会社との打ち合わせ、スタッフの採用などの開業準備は全く未知なることの連続でしたが、ずっと思い描いていた「庄内での開業」が徐々に実現していく様子を目の当たりにすることは非常に楽しいことでもありました。開業地が決定するまでには予想以上の時間がかかりましたが、来院される患者さんから、「見晴らしいの～」

と待合室からの眺望に対するお褒めのお言葉をいただくと、「妥協せずに、この場所で開業して良かった」と心から思います。

休日は良く妻と庄内の日帰り温泉に通います。昼食に温泉施設内の食堂でラーメンを食べた後、ゆっくり温泉につかると日々の疲れが本当に癒されます。私はラーメンが大好きなのですが、庄内は手打ち麺の非常に美味しいラーメン屋さんが多いですね。ラーメンを食べているときも「庄内で開業して本当に良かった」と思うひとときです（笑）

開業当初は、果たしてどれほどの患者さんから来院していただけるだろうかと不安もありましたが、予想以上の患者さんから来院していただいております。それだけ悩みや苦しみを抱えておられる方が多いという現実に驚くとともに、一層精進していかなければと身の引き締まる思いです。また、ここまで来られたのも様々な方々のご協力のお蔭とっております。この場をお借りして御礼申し上げます。



ひとの名さまざま

鈴木 伸男

先日の初場所で稀勢の里が優勝して横綱に昇進したが、この四股名は「まれな勢いで駆け上がれ」との願いをこめて、師匠の鳴戸親方（故人）が命名したという。人の名前は「親から子への最初のプレゼント」と言われている。われわれの時代に多かった〇男や〇子は少なくなっていて、いつかの新聞には「一二三（ワルツ）」や「騎士（ナイト）」が出ていた。

健診の際にもいろいろな名前の人に出会うが、命名の由来からみて興味ある名前のいくつかを紹介したい。

生年月日に因むものとして、1月1日生れの元朝（モトヨリ）、元生（モトカズ）、年始（トシ）、2月4日生れの立春（タチハル）、7月7日生れの星二（セイジ）、星子（ホシコ）、昭和6年生れの昭六（ショウロク）、9月2日生れの邦（クニ）があった。

出生地に関係するものに加茂生れの港（ミナト）、由良生れの浜（ハマ）、五十川生れの五十子（イソコ）があり、ほかに寺の生れの侶子（トモコ）、四女の四女子（シメコ）があった。

時代と関係あるものとして、昭和20年前の戦中生れには攻（オサム）、征勝（マサカツ）、将凱（マサトキ）、忠臣（タダオミ）、英機（ヒデキ）、兵一（ヒョウイチ）、軍子（グンコ）、進女（スメ）がある。なお勝利（カッタシ）、栄光（エイコウ）、萬歳（バンザイ）は開戦後間もなくの日本の戦況の華やかなときのものであり、一方、耐（タエル）は敗色も濃厚になった頃のものであった。

連続ラジオドラマの「君の名は」が放送されて、その時間帯は銭湯の女湯がガラガラになったという昭和27年前後はヒロインの名の真知子（マチコ）が多く、今の天皇陛下ご夫妻が結

婚された35年前後は美智子（ミチコ）が多かった。

スポーツ選手と同じ名前には、相撲の大鵬の幸喜（コウキ）があり、野球では巨人の川上の哲治（テツハル）、西鉄の中西の太（フトシ）があったが、何故か茂雄（長嶋）や貞治（王）はなかった。なお壘（ルイ）と球子（タマコ）は父親が高校生時代に野球選手であり、壘は父親の望みどおりに本人も野球選手になった。

読み方で文字の意味を表していると思ったのは、京（ミヤコ）、林（シゲル）、同（ヒトシ）、新（ハジム）、賢（マサル）、富（ユタカ）、恩（メグミ）、整（サダム）、球子（マリコ）、加子（マスコ）、二子（ツギコ、姉が一子イチコ）があった。

なるほど！と思ったものとして、終治（シュウジ）は五人兄弟の末っ子で、親の願いでもあったのだろう。警（ケイ）は生家が警察の隣だったという。一八（カズヤ）は生年月日と関係はなく、「親が一か八かでつけた」というのは本人の言葉であった。

耕生（ヤスタカ）、莊賢（マサノリ）、寛央（トモヒサ）、狭（タモツ）は「誰からも正しく読んでもらったことはない」とのことであった。

男和一（オトイチ）という人には、その名のニュアンスから「歌舞伎俳優のような名前だね」と、受診するたびに言っているが、本人は「先生からいつも名前を褒められるので来るのが楽しみだ」と言ってくれる。

タレントのような名前の若い女性に対して「AKBみたいな名前だね」と言うと、みな満面に笑みを浮かべる。「いい年をして相変らず鼻の下が長いな！」と言う声がどこからか聞こえてくるような気がする。

平成28年警察検案業務の協力について

福原 晶子

平成28年の鶴岡警察署管内での検視状況についてご報告いたします。合計152件は、例年に比べやや減少しています。しかしながら、警察医による検視は84件と、半数以上を行っています。協力医による検視は4件と、この形がスタートした平成22年から最も少ない件数となっています。病院搬送やかかりつけ医による検案は、ほぼ例年通りでした。

警察医の負担が大きい中、これからの鶴岡地区の検案業務への協力につき、今後、委員会を立ち上げ、検討していく予定です。

警察協力医輪番制度の運用状況

◎鶴岡署管内の検視状況（平成28年1/1～12/31）

警察医	病院搬送	輪番協力医	かかりつけ医	計
84	51	4	13	152

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
警察医	76	82	74	72	84
病院医師	53	73	86	56	51
一般医師	28	34	45	34	17
合計	157	189	205	162	152

医師会ニューフェイス ～平成29年2月1日採用～



氏名：佐藤樹利

所属：湯田川温泉リハビリテーション病院 看護課 看護師

趣味・特技：LIVE鑑賞、スノボ、ダイエット

ひとこと：仕事は楽しくをモットーに頑張ります!!
よろしくお願ひします。

表紙

「紅椿 雪に咲く

— 陋屋の中庭にて。」

林 順一

椿の花期は結構長くて、寒さが訪れる頃から咲きはじめ、桜の花が散ったあとまで咲いていて、終に黒茶色のつややかな実をつける。これらの時期で一番の盛りは「寒」の頃のものである。冬の間には咲くのは冬椿・寒椿といわれ、俳句では冬の季語であり、単に椿というときは、早春の次に来る閑春の季語であるが、このように雪の季節に眞紅の椿が、葉にも白雪を被^{カサ}いて咲いているのは譬えようもなく一段と美しい。

咲くよりも

落つる椿の

風ごころ

— 秋桜子の句を順一承く。

編 集 後 記

めでいかすとる2月号はいかがだったでしょうか。

医師会新年会は多数のご来賓、会員の先生方にご出席いただき、お礼申し上げます。

雪の無い年越しと思っていたところ、例年通りの大雪の中での新年会となりました。たくさんの方々とお話しさせていただき、楽しい時間を過ごさせていただいたこと、あらためてお礼申し上げます。

地域医療連携推進協議会・鶴岡地区医師会・登録医・荘内病院の合同懇談会（名前が長すぎるので略称（愛称？）をとの声があります）では、荘内病院の診療科の具体的な診療・医療活動状況が報告され、出席者から感嘆の声が聞かれました。さらに広く地域の先生方へ荘内病院各科の診療・医療活動状況についてお知らせすることも要望されました。

「なごみクリニック」伊藤俊先生は、私と同じ町内会のさらに同じ隣組でございます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

鈴木伸男先生の機知にとんだ文章は思わず笑ってしまいました。子どもへ名前を付けるときのことが思い起こされました。いろいろ考えめぐねて電話帳さえ繰ったことも覚えています。名づけられた子どもはどう思っていることでしょうか。

インフルエンザの流行は注意報から警報になろうとしています。

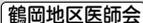
すでに立春も過ぎましたが、まだまだ寒さは続きます。会員の皆様には十分ご自愛いただきますように、お願いいたします。

（小野 俊孝）

編集委員：三浦道治・小野俊孝・福原晶子・三科 武・佐久間正幸・木根淵智子・渡邊秀平

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

ホームページにも掲載しております  URL <http://www.tsuruoka-med.jp>